

第23号

○発行年月日

平成25年3月29日

○発行

社会福祉法人

安房広域福祉会

〒294-0231

千葉県館山市中里288-1

TEL 0470-28-2422

FAX 0470-28-2424

にじのかけはし



変化

わたしたちは常に変化している
目に見えなくとも、

確実に変化している

年齢を重ねることは

衰えることではなく

「進化」することを

常に意識することで

一秒ごとに「変化」「進化」していく

過去を振りかえると

弱い自分がいたこと

勇気を出せずにいた自分がいたこと

今は違う

常に「変化」「進化」する自分を信じて

進んでいきたい



就任挨拶



福祉事業経営の不易流行

理事長 武田 金市郎

一月二十三日の理事会において、第五代理事長に就任いたしました。

本法人は、昭和六十二年四月一日に「中里の家」として発足し、本年まで四分の一世紀の間に、12の事業を経営するまでに発展しました。

その間、社会(政治・経済等々)は激しく変動し、私たち福祉事業にかかわる者にも様々な転換が要求されました。また、障害者に対する市民の認識にも変化が見られるようになりました。(「流行」)

そのような状況の中で、本法

人は一貫して、地域社会の要望に応えるべく、設立目的である「障害者の現在・未来のために、一人ひとりを尊重し、生きる豊かさ」を追求しつつ、また利用者の「充実した日常と自立を旨とし、必要な知識・技術の修得と、就労・社会参加」のための支援に取り組んでまいりました。(「不易」)

現在の本法人がありますのは、偏に関係者各方面の方々の深い御理解と御支援の賜であります。また、安房地方の皆様方への本法人に対する負託に応えるべく努力された、歴代の方々並

びに職員の一体となった取り組みの成果であろうと思います。

なかでも宮崎前理事長は、十四年間にわたり本法人の充実・発展のため尽力され多大な功績を残されました。その後を私のような浅学菲才の身が引き継ぐには、あまりにも大任ではあります。利用者のため微力を尽くしてまいります。そのよりどころとなるのは、平成二十二年度に制定された、本会の理念である「自他相愛」の精神です。時代・社会がどう変化しようとも変わらぬ本法人の心です。(「不易」)

ところで、本年四月一日より、所轄庁が館山市となり、また福祉に関する法律も変わり、私達現場にも多様な変化が求められます。(「流行」) それらに適切に対応しつつ、この地域で生活し、福祉の支援が必要なすべて

の方々には手を差し伸べられるよう努力してまいります。
今後とも、これまでと変わらぬ皆様方の温かい御指導、御支援を賜りますようお願い申し上げます。

お知らせ

一月二十三日開催の理事会において、前理事長の宮崎健一顧問から安房広域福祉会に対し御寄附十万円をいただきました。宮崎顧問は、永年、当法人の理事長として御尽力いただきましたが、今後もご指導をお願いいたしましたが、今後とも御寄附を御願ひいたたく、顧問として委嘱させていただきますところでありたいと思っております。御寄附につきましては、有効かつ記念に残るよう活用させていただきます。

新成人を祝う会

支援員 高橋 麻衣

「中里ワークホーム」桜の里をご利用されている2名の女性方が成人を迎えました。1月15日、前日の大雪で辺りは一面の銀世界。二人の門出をキラキラと祝福してくれているかのようでした。式が始まる直前、緊張が高まると同時に、子供の顔から大人の顔へと変わっていく様子を間近で感じ、お二人の成長を心からうれしく感じました。式の中ではたくさんの仲間や来賓の皆様祝福していただきまし

た。そして、誰よりも近くで成長を喜んでいらしたご家族の皆様、これからもお二人の成長の支えとなり、お力になりたいと考えておりますので、今後ともよろしくお願いたします。最後に成人を迎えられたお二人に

「素敵な大人の女性になつてく
ださい」心からおめでとござ
います。



▲両ご家族と共に記念の一枚

成人式を迎えて

吉田 梨香

成人式を開いていただきありがとうございました。成人式ではお母さん、お婆ちゃんが一緒にいたので壇上で緊張しましたがお礼の言葉を言い花束を渡すことができました。

式のあと桜の里のみんなに「どうだった？」と聞いてみると「リンとした。」「女優だった。」なんて言われちゃいました。20歳になったので、これからはお姉さんらしく行きたいと思います。



▲感謝の気持ち 一花束贈呈一



▲感謝の気持ち 一花束贈呈一



▲皆で歌う



▲舞踊観賞

安房神社 節分祭

支援員 飯田麻衣子

2月3日に、毎年恒例である安房神社の節分祭に参加しました。

節分とは、立春の前日に「福は内、鬼は外」と声を出しながら福豆をまき、年齢の数だけ豆を食べて厄除けを行う行事をいいます。

今年の節分祭は、日曜日ということもあり、境内はたくさんの人で賑わっていました。昨年に引き続き、ゲストとして「さかなクン」が来ていて、利用者の方々も「さかなクンが来てるね。」と嬉しそうに話していました。中里の家の利用者の方々



▲こっちに投げて〜!! 福豆〜!!



▲野鳥の森でのんびり休憩中♪♪

は、節分祭に備え、福豆やお菓子をたくさん入れる為の大きな袋を用意していました。投げる時には大きな袋を広げ、「こっちに投げて〜」など大きな声でさかなクンを呼んでいました。節分祭に参加した利用者の方々全員が、福豆やお菓子をひろったことができ、利用者の方々の満足した表情を見ることができました。年齢の数ほど福豆をひろうことはできませんでしたが、元気に楽しく参加できた節分祭は、しっかりと厄除けになったように思います。

帰り道に、「桜が咲いたら安房神社にお花見に来よう。」という話で盛り上がりました。春が楽しみです。

桜の里

節分会 豆まき

支援員 大橋 隆弘

2月1日に、桜の里では一足早い豆まきをしました。1月の中旬から創作活動の中で鬼のお面作りにとりかかりました。段ボールに画用紙を貼り付け、利用者の皆さんにそれぞれの「鬼」を描いて頂き、輪ゴムをつけて出来上がりました。

当日は完成したお面と衣裳を身に纏った鬼に夢中で豆をまく人と、夢中になって豆を食べる人、自分で作ったお面を被って満足している人と、とてもにぎやかでした。鬼を追い出した後は、ちゃんと福を呼び込み、桜の里の豆まきは終わりました。みなさんの所にも、たくさんのお福が無い込みますように…。



▲福よ来い!!



よい一年になるように♪

こすもす 節分会

支援員 家守 亜矢

児童デイセンターこすもすの児童発達支援事業（未就学のお子様方への療育）である「つくしんぼクラス」において節分会を行いました。

豆まきの豆はお子様達が手でつかみやすく、紙をまるめて作りしました。鬼は、赤く大きな顔で登場です。

赤鬼をこすもすから出すために、みんなが豆をまくことをお子様達に伝えると、「鬼は〜そこ」「え〜!!」とかげ声とともに豆をまきました。

赤鬼がこすもすからいなくなり、みんなが頑張った事でこすもすにも穏やかな春が来ることでしょう。行事は季節を感じ、楽しく過ごす



▲鬼は外 福は内!!

体験です。豆まきが終わった後、お子様達の笑顔に喜びを感じました。

感動!!こすもす卒園・修了式

支援員 家守 亜矢

3月8日、空は良く晴れ渡り、春らしい暖かいこの日に、児童デイセンターこすもすの卒園・修了式が行われました。

平成24年度は、こすもすを利用されている未就学(児童発達支援事業)のお子様の中で5名が卒園・修了式を迎えました。

お子様たちは普段と違うこすもすの様子に緊張していましたが、保護者の方々が見守る中、1名が卒園証書、3名が修了証書を授与されました。法人の川名事務局長からお祝いの挨拶を頂き、お子様たちにイチゴをプレゼントしてくださいました。これにはお子様たちもびっくり!イチゴに注目していました。

この日のために練習してきた「山の音楽家」の合奏も手作り楽器で披露し、記念品贈呈では言魂詩人・慧さんからお子様たちへメッセージの色紙を頂きました。

最後には保護者の方々より、お子様へ想いをお話しして頂



▲卒園式

き、成長の喜びを共感いただきました。

今日のこの日のお子様たちはよく頑張りました。その姿を糧に、又ご家族の想いを受け止め、私たちはこれからもお子様たちが楽しめる児童デイセンターこすもすを創っていきます。



▲イチゴのプレゼント



▲証書授与

共同生活「ケアホームなかざと」地鎮祭 介護事業

管理者 畠山 正昭

去る2月28日、当法人で4棟目となるケアホーム建設の地鎮祭が行われました。武田理事長、川名本部事務局長、フークホーム岡田施設長、ケアホーム管理者畠山、設計管理業者の丹建築設計事務所、工事業者の田中建設株式会社が出席しました。安房神社の神主に工事の無事と建物の安全と繁栄の御祈禱を頂きました。

今回の整備は平成24年度の社会福祉施設等整備事業補助事業を活用させて頂いてのケアホーム建設であり定員5名の平屋建てであります。入居者については現在、中里の家を入所利用している方々で地域での生活を望んでいる方を対象としております。これからも可能な限り地域への移行を進めていきたいと考えております。



中里の家トイレ バリアフリー工事

施設長 畠山 正昭

中里の家では平成24年度障害者自立基盤整備事業を活用させて頂き、トイレのバリアフリー工事を行っております。今までは入り口が段差であり、トイレのスペースも狭く、車椅子や歩行器を利用する方に対しての対応が十分とは言えない状況でありました。また、高齢の方、足腰の弱い方が非常に多くなっている為、今回の改修により、負担軽減と安全で快適な利用と生活環境の向上が図れ、事故防止や安全対策につながります。今後も利用者の方の生活を第一に考え、施設の環境整備に努めてまいります。



障害者雇用企業見学・意見交換会を通じて

障害者就業・生活支援センター中里 就業支援員 金木 隆裕

障害者就業・生活支援センター(以下ナカポツ)事業の一環として、就労支援ネットワーク強化・充実事業があります。今回は障害者雇用をしている企業の見学会を安房地域の各福祉事業所やナカポツが関わっている企業の方へお声かけし、富津市にある株式会社千葉農産の見学及び、意見交換会を行いました。



▲意見交換会

当日はブロッコリーの収穫の様子をまず見学させていただき、その後本社へ移動し機械の説明、廃棄される野菜を利用して畑の肥料に変えて再利用する事など色々と細かく説明をいただきました。

その後場所を移動し意見交換会を行いました。それぞれ違った視線から見学をした感想や、



▲～ブロッコリー収穫見学～

障害者との接し方・やりがい・生きがい・どうしたらその仕事の楽しさ・おもしろさを感じながら仕事に従事してもらえるかなど時間が足りないほどの交換会となりました。

まだまだ障害者雇用をしている企業は少なく、まずは様々な障害を抱えながらも企業の戦力として毎日従事している方達の姿を見て頂き、少しずつでも多くの方に理解をしていただけるよう、見学会や研修会のような場を提供できるように努力していきたいと思います。さらには見学会等をきっかけとし、支援機関や企業など地域のネットワーク強化を図りながら雇用機会の拡充をしていけたらと思います。



▲～農機具説明～

最後に、今回お忙しいところ見学会にご協力いただいた千葉農産の方々本当にありがとうございました。

水分補給の重要性

栄養士 岡本 恵津子

中里の家では、この度食事委員会主催で㈱大塚製薬工場の御協力により経口補水療法の講習会を実施し冬場の感染症、嚥下障害の対策などを教えて頂きました。

脱水とは、水分と塩分を失った状態であるので補給方法としては、塩分も摂取する必要があります。又、脱水は下痢、嘔吐、食事摂取不足などが原因となる為、一年を通して注意していかなければならない事がわかりました。

口腔内の渇きがなくても脱水になつている場合もあるので介助する側は、対象者をよく診ることが大切です。



▲講習会



▲経口補水液を飲みながら

ここ数年、夏は猛暑に見舞われる利用者さんは、2〜3名脱水と思われる体調不良の方がいらつしやいました。が昨夏は、中里の家特製の経口補水液を用意し7月〜9月の間は生活班の利用者さんを中心にこれを一日二回飲んで頂きました。その為、脱水で体調不良という利用者さんは、ひとりもあらず、快適な生活を営むことができました。講習会には30名を超える職員が参加し、皆、真剣に受講していました。

おいしく、楽しく、安全で、健康的な食事をずっと食べて頂ける様、利用者さんの食事づくりと支援に取り組んでいきたいと思えます。

南房同友会さん来所

事務員 田村 英之

南房同友会さんは当法人に来て下さる音楽ボランティアグループです。今度はいつ来て下さるかなあ...と思つていたところ、先方よりお電話をいただき、2月15日、まさに1年ぶりの来所が決まりました。

当日は雨で足元が悪かったので、10名以上の方が来て下さり、歌謡曲や民謡、フラダンス、舞踊を披露して下さいました。懐かしいメロディーが一曲一曲、利用者さんの心にじんわり染み渡りました。そして、なんとこちらも南房同友会さんの魅力は、参加型



▲皆で踊りましょう♪

の音楽です。『ふるさと』と一緒に歌ったり、『炭坑節』『東京音頭』と一緒に踊らせていただいたり。やっぱり、自分で歌ったり、大きく手を振って踊ったりするのは爽快で、利用者さんの心も体も元気になったのではないのでしょうか。職員も一緒に踊り体を動かすことで、リフレッシュができました。1時間という短さで、こんなに内容盛りだくさんの充実した時間を過ごすことができ、今回も大盛況でありました。次回の来所を、心からお待ちしております。



▲フラダンス舞う

ケアホーム
平砂浦

(JKA補助事業)
みなさん、どうぞー！
落合正文シェフ

支援員 川上 賢人



JKAの補助事業で建設したケアホーム平砂浦で8名での生活が始まり、約1年経過します。中里ワークホームでの生活から移られ、だいぶ生活に慣れてきたように感じます。平日は、施設内外で就労し、土日は余暇を過ごされています。余暇の昼食は、近くのスーパーで買い物をして世話人とホームの皆さんで調理しています。ある日の夜、利用されている落合さんから相談があり：昼食を自分が作ってみるのに振舞いたいです！との内容でした。私自身、料理が得意な方ではありませんので恐縮ながらお願いしました。

翌日、2人であれにしようか？これもいいかな？と談笑しつつ買い物を終えてホームへ着くなり、落合さんが単独で調理を行い、私は使い終えた容器や調味料の受け渡しへ。完全にアシスタントです。ここ最近、肉料理が多かったようなので焼き鮭と野菜スープ、そしてお浸しとデザートを添えて完成です！

彩りもよく皆さん残食なく、おかわり！という方もいらつしゃいました。落合さんの皆さんへの思いが料理にも届いたのではないのでしょうか。とても美味しかったです！今後は調理の学習など取り入れて色々な料理ができるようになりたいとお話しされていました。

(桜の里隣接)
多目的グラウンド・
テニスコートが使用できます

生活介護事業所「桜の里」の敷地内にある多目的グラウンドとテニスコート5面を、安房広域福祉会の利用者の方々の運動支援施設として、昨年の12月から利用させていただくこととなりました。各施設で有効に活用していきます。

また、この施設は地元地域の皆様や当法人施設での利用者や事前の予約で利用できる場合があります。また、この施設は地元地域の皆様や当法人施設での利用者や事前の予約で利用できる場合があります。



▲テニスコート



新職員紹介



支援員 本間 祐也

初めまして、12月から中里の家で働かせて頂いています本間祐也です。わからないことが多くご迷惑をお掛けすると思いますが自分ができることから頑張りますので宜しくお願いします。

ボランティアのお知らせ

中里の家・中里ワークホーム・こすもす・桜の里では、随時ボランティアを募集しています。作業など一緒に参加して下さる方、心よりお待ちしております。まずはお電話にてお問い合わせ下さい。

お問合せ先
連絡先

■中里の家
館山市中里 288-1
☎ 0470 (28) 2022
FAX 0470 (28) 2023
nakazato-ie@minos.ocn.ne.jp

■中里ワークホーム
館山市中里 291
☎ 0470 (28) 2422
FAX 0470 (28) 2424
nakazato-workhome@m2.dion.ne.jp

HPURL <http://www.nakazato.or.jp/>

編集後記

日ごとに暖かくなり春の訪れを感じる今日このごろ、本年度最後の発刊になりました。

今後とも、「にじのかけはし」を通じて当法人のことを知っていただけたらと思います。これからもわかりやすい記事をお送りしていきたいと思っておりますのでよろしくお願いたします。

(小高)